

# じゅりみち

…… 被災地支援情報 ……

第100号 発行日 2014.1.17  
被災地NGO協働センター

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

tel: 078-574-0701 fax: 078-574-0702

URL <http://www.pure.ne.jp/~ngo/>

e-mail [ngo@pure.ne.jp](mailto:ngo@pure.ne.jp)

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

## じゅりみち100号特別号

### 減災サイクルー阪神・淡路大震災19年の経験値を凝縮

**阪神・淡路大震災**から19回目の1月17日を迎えました。今回のじゅりみち100号記念号の特集として代表・村井雅清にこの19年の集大成とも言える彼の減災サイクルについて想いを語っていただきました。

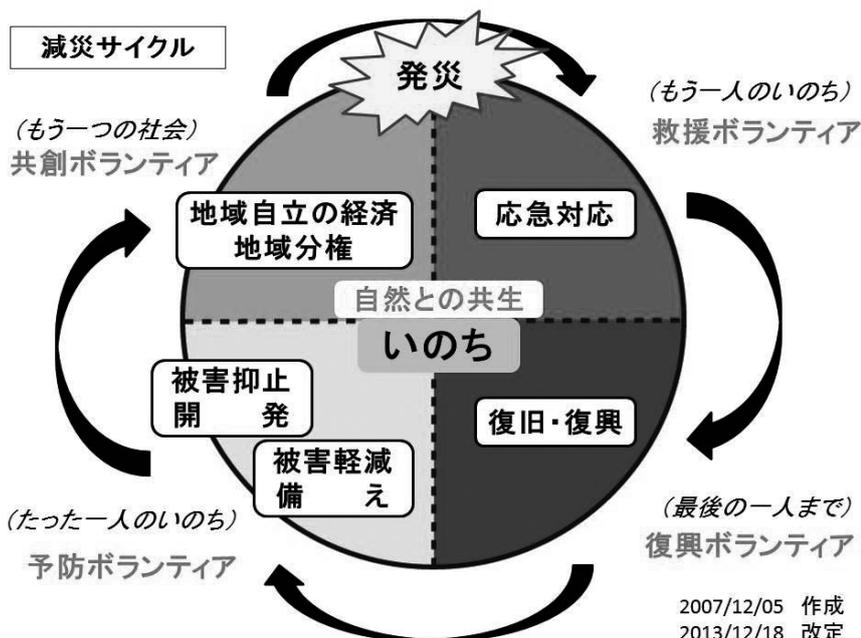
**2007年**から減災サイクルということを書いてきたけれども、あの考え方に今までの経験値は全部集約されているんです。細かくサイクルを分析していったときに様々な理念が根底にあることが浮かび上がってきます。災害マネジメントサイクルという一般的に使っているものではなくて、あくまでも減災サイクル。多少の被害はあってもやむを得ない、しかしその被害を最小限に抑えようというのが、一般的な減災の考え方。僕の考えは違っていて、あくまでも**一人のいのちも亡くしてはいけない、せつかく生き残ったいのちも亡くしてはいけない、この2つの原則は減災サイクルにのっとれば実現するという考え方。**

**東日本大震災**では、明治三陸津波や昭和三陸津波の教訓を活かしていなければいけなかった。それも減災サイクルの中に取り込んでいけば、事前の備えというものも出来ていて被害も少なかったはずですね。それは誰もが分かっていた。しかし、それでも忘れてしまっただけでまさか来ないだろうという判断をしたので、多くのいのちが亡くなってしまった。つまり、復旧・復興、被害軽減・被害抑止という従来の災害マネジメントサイクルの項目だけだと今までの繰り返しになる。被害は減らないという事。そうならないために、「もう一つの社会」「もう一つの考え方」が入ったサイクルにしないと被害はゼロにはできないという結論です。だからサイクルのど真ん中に**“いのち”**と**“自然との共生”**を置いています。

**サイクルは円ではなく、スパイラルだから成熟していく**という意味合いを含んでいます。それは、**今までの減災では考えなかったことを取り入れるということがミソ**になっているんです。例えば、建物は壊れてはいかんという発想から建物は壊れるもんだという発想に変えないといけない。伝統工法は粘りを持っているからぐしゃっといかない。壊れるんだけど粘りを持ってじっくり壊れたら脱出できる。コンクリートの建物は壊れてしまったら助けられない。伝統工法は隙間が出来るし釘を使っていないので、例えばどこでもチェーンソーを入れて助けられる。また、川はあふれるものだという考え方によって、川と日々向き合うことで水害を防ぐ。



被災地NGO協働センター  
代表・村井雅清



**もう一つは、一人ひとり**ということ。阪神・淡路の時に隣近所の方々が3万5000人の中から2万7000人を助け出したんです。誰も経験がない中でもう一人の命を救おうという想いが命を救ったんです。だから減災でも少しくらい亡くなくてもいいということはありません。全てではなく、一人ひとりを見ていくことが、最後の一人まで救うこと、犠牲者をゼロにすることにつながっているんですね。これは確信しています。

(聞き手・編集 頼政良太)

※減災サイクルについては、『災害ボランティアの心構え』（ソフトバンク新書）参照！

2007/12/05 作成  
2013/12/18 改定

# じゅりみち100号

## 運営委員の皆様からのメッセージ

### じゅりみち100号に寄せて

被災地NGO協働センター運営委員  
特定非営利活動法人 拓人こうべ 代表 福永 年久

阪神・淡路大震災から18年経つが日本において1920年から1970年までに自然災害が44回あり、50年間でももちろん阪神淡路大震災と東北大震災は数に入っていませんが、日本の自然災害の復興に1年間の費用は2,000億という莫大な経費をかけ、復興という名を借りて他の費用に大部分が使われています。世界一自然災害が起こっています。阪神淡路大震災の時の仮設住宅が東北大震災にも運ばれて非常に生活がしにくい。特に障害者は全く使いにくい。阪神の時の教訓が活かされてなく、18年経過しているにもかかわらず、そのまま東北に運ばれ使われています。

私は阪神大震災の復興活動から学んだ事柄を東北にも活かそうと思い、東北大震災の3か月後に福島に現状の把握をしようと

思い行きました。行ったところ、避難所には全く障害者の姿がありませんでしたので、福島の障害者自立支援センターに向かいました。

仲間が作っている作業所を3か所回り作業所に来ている障害者に聞くと、震災が起きてすぐは避難所に行ったが、生活できないので家に帰り作業所に来ている。今一番怖いのは原発でした。何とか東北の障害児者が移住が出来る場所が必要と思っていますが、中々難しい。人とお金が必要。特に私と一緒に活動してくれる人が必要です。膨大な時間がかかるが一緒に活動してくれる人を探しています。協力をお願い致します。

### 阪神・淡路大震災からボランティア活動を継続 ～「じゅりみち」100号の発行に寄せて～

被災地NGO協働センター運営委員  
阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長 黒田裕子

「じゅりみち」100号おめでとうございます。そして被災地NGO協働センターの活動も満19年を迎えることになりました。筆者にとってもこの19年の間には、様々な方と、そして活動との出会いがありました。その中に被災地NGO協働センター代表であった村井雅清氏が、そして今は亡き草地賢一氏がいました。こうした出会いは筆者にとって大きな財産となりました。

協働センターの機関紙「じゅりみち」も19年の経歴を持って現在のボリュームのある内容となり、毎号楽しみにしている人は多いと思います。協働センターの幅広い活動と共にそれらの情報を整理して機関紙としていく担

当者のご苦勞に敬意を表します。「じゅりみち」の歴史は単に被災地NGO協働センターの歴史に止まらず、広くボランティア活動の歴史であり、また災害とボランティアの関係性の歴史であり、社会におけるボランティアの位置の歴史です。100号発行を一つの括りとして記念誌として発刊はいかがでしょうか。

これからも一運営委員として協働センターの活動に関わり、「じゅりみち」のより充実に微力ながら力を注いでまいります。





## じゅりみち100号に寄せて

被災地NGO協働センター運営委員  
都市生活コミュニティセンター 池田 啓一

郊外に建てられた仮設住宅。敷地内は舗装もされず、人々はじゅり道を踏んで歩む生活を始めました。

生活改善の必要に迫られて、あちこちで「寄り合い」のような場が生まれ、サポーターたちも集まりだすと、じゅり道が舗装されるようになったり、道端に伸びた雑草が刈り取られ、代わりに花壇やミニ菜園が作られたりしました。

「希望」などなかったかも知れません。しかし、それでも「道」は人が通う道でした。あれから20年近い歳月が流れ、いま私たちはまったく別の「道」を見えています。立派なのに通えない道、バリケードで塞がれて通ってはいけない道。そうした道がとてつもなく広

い範囲に伸びています。いうまでもなく、東電の原発事故の結果です。

いま新しい道の付け直しが問われています。実際に人が暮らすまちをどうやって作るかはもちろんですが、エネルギー政策をどうするか、これにも新しい道を付け直さないといけません。

『じゅりみち』が100号も続くのは、災害が途切れないということ象徴していて、あまりめでたいことではないかもしれませんが、やはり関わった方々の努力は大変なものだったと想像できます。今後の「地道」な「みち」の付け直し作業に期待しています。

第51号

2014. 1. 17



発行所：被災地NGO協働センター 〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10  
TEL：078-574-0701 FAX：078-574-0702 <http://www.pure.ne.jp/~ngo>

阪神・淡路大震災から19年の時が流れました。「まけないぞう」が生まれてから17年が経ちました。この間、全国・全世界の人たちに支えられ、ここまでくることができました。各地で続く災害で多くの人々が大切な命を奪われました。それでも、災害に“まけないぞう”という想いを込めて、被災者と被災者、支援者と被災者という人々をつなぐメッセンジャーとして、みなさんに支え続けられてきました。本当にどうもありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

ぞう  
通信。

## じゅりみち100号に寄せて

1995年1月17日、阪神淡路大震災が発生。6,434名の尊い命が奪われました。私も現地に入った時は、自分の目を疑う程、悲惨な光景が広がっていました。それでも人々は、前を向いて生きていったのです。「人って強いな」とつくづく感じました。ある被災者の方が「ほんま人間しとってよかった」という当たり前のことにあらためて気づかされたこの言葉を残しました。

避難所から仮設へ移行し、コミュニティが分断された、人々は孤独と不安を抱え、仮設では233名の方が「孤独死」をしました。そして、当初仮設住宅の敷地内は、コンクリートでなく「砂利道」だったのです。そこからこの「じゅりみち」という名前になったのです。

そして、仮設で孤独と不安な生活をする被災者に少しでも前向きに、生きがいを持っていきほしと想い、この「まけないぞう」が生まれました。

KOBEの作り手さんは、「こんな私でもやっと思返しができる、人のお役に立てるのね」と。。。



インドでは仏教国ということもあり、プレゼントしたぞうは、「ケガした足がなおりますように」と祠に飾ってくれました。

支援者の方たちからは「被災地であんなに大変な目に遭っているのに、こうしてまけないぞうを作っているなんて、こちらが逆に元氣や勇氣をもらいました」とメッセージを頂きました。

「まけないぞう」は、いつでも人と人をつないでくれます。東日本大震災で生まれたmakenaizoneの支援者が新年に寄せてくれたメッセージです。「数多くの犠牲者の方が生きたかった今日をこうして生きている私たちに出来ることは何であるのかをこれからも常に考え活動していきたいと思っております。」と心強い新年のメッセージを届けてくれました。

たくさんの悲しみの中から、たくさんの人たちとの出会いが生まれ笑顔が生まれたことに感謝します。

担当：増島 智子

# 阪神・淡路大震災20年の検証

## 2015市民・NGO フォーラム

前回のじゃりみち99号でも紹介したが、2015市民・NGOフォーラム準備会として、昨年から阪神・淡路大震災20年の検証作業を行ってきた。これまでミーティングを重ねる中で様々なキーワードが出てきた。例えば、居場所、個の尊重、若者が進路を選択できる社会、障がい者が当たり前に地域で暮らす、など多様だ。こうした多様なキーワードを今後は身近な暮らしの中での出来事に引き付けて議論していきたいと考えている。

「個の尊重」を考えた時に、言葉で個を尊重するという事は簡単だ。しかし、自分の生活の中で個を尊重するという事はどういうことなのか？相手にとって尊重されたと感じるときはいつなのか？そういったテーマを今後はより具体的に身近

に考えていこうと思っている。そうすることで、多様性を理解することにつながっていく。さらには同じ個の尊重という価値観でも違う感覚を持っている人がいることを認め合う包摂性（インクルーシブ）へもつながる。

私たちは前述したようなことを話し合う場を次世代と共に作っていくことが実は次世代に伝えるということになるのではないかと考え始めている。まだまだ暗中模索の状態だが、少しずつでも次世代に確実につなぐ場を作ることが出来るのではないかと思う。阪神・淡路大震災で気づいた「たった一人を大事にすること」をこの場でも実践していきたい。これまでもそうしてきたように「場の力」を信じたい。

(頼政良太)

### ■入会・カンパのお願い！

私たちの活動を継続するために、被災地NGO協働センターでは会員や活動資金のカンパを募集しています。詳しくはセンターまでお気軽にお問合せ下さい。

- ★団体会員 年会費¥10,000 × 1口以上
- ★個人会員 年会費¥ 3,000 × 1口以上
- ☆団体賛助会員 年会費¥10,000 × 1口以上
- ☆個人賛助会員 年会費¥ 3,000 × 1口以上
- ☆自由選択会員 年会費¥ 任意の額

郵便振替 加入者名：被災地NGO協働センター  
口座番号：01180-6-68556

### ■編集後記

こんにちは！今回のじゃりみちも編集をさせていただきました、スタッフの頼政です。前回のじゃりみち99号に掲載していたコラム「観音様の不思議なご縁」でご紹介した釜石の観音様に奉納されている写経は、600巻ではなく6000巻の間違いでした。大変申し訳ありませんでした。

さて、皆様は年越しそばは毎年食べられているのでしょうか？私の実家では毎年家族全員で年越しそばを食べています。この年越しそば、江戸時代には定着した文化と言われて

いて、蕎麦は他の麺類よりも切れやすいことから「今年1年の厄災を断ち切る」という意味があるそうですよ。沖縄県では沖縄そばを食べる人が多いとか何とか・・・ちなみに「年明けうどん」という宣伝を最近よく見かけますが、そちらは2009年から始まった新しい試みだそうです。当センターでは年明け薪割りが行われておりますが…(笑)

今年をまた良い1年にするためにスタッフ一同頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします！

### 事務局のボランティアも募集しています！

私たちと一緒に活動をしてくださるボランティアさんも随時募集しています！

主な内容は事務局のサポートや情報発信、まけないぞうの発送作業などを行ってまいります。災害が発生した際には足湯ボランティアなど、災害ボランティアとして活動して下さる方も大歓迎です。

ボランティアでの活動を通して、NGOや市民社会、防災・減災のことも学ぶことも出来ます。

初心者の方も大歓迎！ぜひお越し下さい！

- ★「NGOって何？ん、NPOとは違うの？」
- ★「何か手伝うことある？」
- ★「このまえ災害があった場所って、今どうなってるの？」
- ★「初めてボランティアに行くけど、注意事項ってある？」

——こんな質問があってもなくても、ぜひお越しください。



